

熱中症見える化

【見える化①】 危険度合い指標数値の呼びかけ。（その日の気候を周知させる）

社員は夏季の期間中は毎朝の朝礼時に【熱中症予報表示板】の指標温度を読み上げ、各職人へはもちろん、特に職長への意識を高めさせ、適正な人員配置を行わせる。（写真①） 尚、昼間休憩後に現場へ向かう前にも指標計の数値を朝礼用スピーカーにてアナウンスし、注意を呼びかける。



【見える化②】 作業場の熱中症指標計の見える化。

建屋内ではどのくらいの環境であるのか分かるように、その日のメインの安全通路上に**指標計**、**対策予防ポスター**の掲示を行い認識を持たせる。呼びかけセンサーによる呼びかけ、作業所目標の見える化を行い、個々の意識を高めさせる。（写真②）



【見える化③】 各所看板設置による「見える化」の実施

安全通路上に**看板**、**熱中症になった場合の救急処置方法**や**緊急連絡体制**の掲示をすることで、対策をよびかけ、安全意識の向上を図る。（写真③）

